

平成 29 年度物部川清流保全推進協議会総会 議事要旨

日時：平成 29 年 7 月 25 日（火） 13:30～15:30

場所：のいちふれあいセンター 3 階 第 1・第 2 学習室

出席者：[委員]渡邊会長、植野委員、岩神委員、新宅委員（代理：岡林副所長）、岡村委員、
南国市長（代理：企画課 小野主査）、清藤委員（代理：田内副市長）、
法光院委員（代理：定住推進課 岡村班長）、依光委員、石川委員、
山崎委員、田所委員（代理：森下副部長）（12 名）

[随行者]四国森林管理局 川田流域管理指導官（1 名）

[事務局]環境共生課 三浦課長、環境共生課 三好課長補佐、
環境共生課 遠近チーフ、環境共生課 高橋主事（4 名）

1 高知県林業振興・環境部 環境共生課長あいさつ

- ・委員の紹介
- ・会の成立を報告
- ・「審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき、審議内容をホームページで公開することの了承を得る。

2 議事

(1) 役員改正について

- ・石川委員より会長に渡邊委員、副会長に笹原委員の留任要請の意見があり、異議なく承認された。

(2) 平成 28 年度の取組成果について（報告）

(3) 平成 29 年度の取組方針について（協議）

- ・事務局から説明

【主な意見】

- ・平成 29 年度の取組における「物部川子ども祭り」は既に開催されたのか。
⇒平成 29 年度は 5 月に開催されており、協議会として出展した。報告にもあったように、清流保全計画だけだと内容が難しくなり、子どもたちに見てもらえないということがある。今年度も、前年度同様に水生生物の標本を展示することで、子どもたちに来てもらい、計画や取組について説明を行った。

- ・今回は標本だけだったが、さらにワンステップとして、生きているもの、動いて

いるものを展示できれば、もっと川に対する興味・関心を持ってもらうことにつながり、喜んでもらえるかもしれない。

⇒次回に向けての課題としたい。

・農業濁水のことについて、おおまかでもいいので、どれほど本線の濁度に影響しているのか、濁水の入らない上流と入ってくる下流での差や量の結果がある程度出てくれば、今後の調査の参考になるのではないか。

また、河川勉強会について、現場視察の目的や内容を教えてもらいたい。

⇒濁水対策についてだが、濁水の原因となる土砂の発生地点を押さえることが難しいという研究結果が出ている。そこで、代かき時期以外の濁度調査により、どれくらい流出があるか推計するために11月の調査を始めた。今後も何年かにわたり調査を行い、数値等を積み上げていきたい。

河川環境勉強会については、会員だけでなく一般にも参加対象を広げることで、できるだけ多くの方に興味を持っていただきたいことから、生物多様性といった生き物に関連するものではどうかと考えている。近自然工法といった、工事による生物へのプラス面を示せるような勉強会にしたいと考えている。

・協議会の目指す物部川清流保全計画における目標3が基本的な目標だと思われる。生き物視点での評価をしっかりと行ったうえで、計画にもある、50年後の姿に向けて次の段階に繋がる勉強会としてほしい。良い面も悪い面も含めて勉強・評価し、本来の川を取り戻すためにどう改善していくかを展開していく必要がある。

・県から文書が送られたときに、出てくる名前が四万十川と仁淀川であり、物部川の名前が出てこない。環境の課題を知っている者からすると、最初に挙がるのは物部川である。行政としての姿勢の中で、どこを大事にするかという観点が重要になってくる。

・事業計画についてだが、幹事会が機能していないと思われる。活用についての考えを聞かせていただきたい。

⇒幹事会の今後の機能については、内容を確認したうえで、皆さまからご指導いただき、しっかりと機能を果たしていきたい。

・今年もそうだが、多くの濁水が流れている。梅雨時期なのに濁水があったり、台風3号あたりから大雨による濁水も出ており、流域も困っている。土砂が溜まることで濁水になる心配もある。幹事会の中で、そういった土砂をどうやって取り除くかといった情報を教えていただければ、対応の検討にもつながってくると思う。

・物部川漁協の松浦組合長が環境も含めて熱心に取り組まれている。もし、よければ松浦さんを協議会の委員に加えてはどうか。

⇒委員に入っただくことについて問題ない。その際に森林組合も一緒に入っただく形にすべきではないかと考えている。こちらで整理をしたうえで会長に相談させていただきたい。

・この協議会の一番重要な課題が何なのかというと、物部川の本来の豊かさを取り戻すことである。これからはまさに濁水対策と川本来の姿を取り戻す、2大の重点事項になるかと思う。

・ここ何か月かの中に漁協と色々な部局と協議を行ってきた。その中でダムの堆砂の問題の話し合いもされている。できれば漁協とどういった課題があるのか、その解決に向けてどのような話し合いがなされているのか情報共有を図ってはどうか。

・清流保全計画に対する3市の意識・取組が非常に大事である。森林保全に関する活動として、日御子川の沿線の水辺林整備に取り組んできた。その中で課題として出てきたのが、山の持ち主の確認である。去年は各市からそれぞれ市長に沿線を確認していただき、実態把握をしてもらった。ここまで状況が進んでいるため、ぜひとも続けてやっていただきたい。森の問題は水の問題に直結しているため、行政として3市一体でやってほしい。

・濁水については、物部川濁水検討委員会で十数回の検討を重ねてきている。実は相当な分析もされており、上流のどこから、どの支線から、雨が降ればどれくらい濁水が流れてきて、どう変化していくのかもかなり追跡していると思われる。試算ではあるが、それぞれの山からの濁水量の推定もされている。漁協との話し合いもそうだが、そういった様々な場で行われている話し合いや検討の結果をうまく共有できればよいと思う。

・先ほどから出ている勉強会とか幹事会とかそれぞれの会の中でやるべきことを整理して、うまく情報共有すべきところは情報共有し、検討すべきところも検討するのが必要である。濁水対策検討委員会については、県の努力はすごいと思うし、かなりの成果があがっているのではないかと。ぜひ、そういったことを共有できる場を作っていただきたい。

・河川整備の在り方においては、モニタリングが重要であり、その評価や対策も必

要である。川の理想像、ゴールと同時に整備の過程も重要となる。予算の制度の関わりや時間の制約があり、そこを乗り越えるためにどんなことが必要か考えることも重要ではないか。

・結論として勉強会は協力して開催し、有意義なものにしていくこと。幹事会も開催していただくこと。濁度調査は今年度から JA 土佐香美にも入っていただいております、引き続き進めるとともに、データを継続して取っていくこと。委員の追加を検討すること。物部川漁協との連携もしていくこと。

閉会